

平成28年7月9日(土)

老球の細道249

6月の言葉

会津バスケットボール協会 室井 富仁

病は気から。「気にしない」「クスリはリスク」をモットーに健康腹八分目で青春62歳も半分が過ぎサル。

1・読書から

「今日は昨日の我にかち、明日は下手にかち、後は上手に勝つとおもひ、千日の稽古を鍛とし、万日の稽古を錬とす」〈魚住孝至著『宮本武蔵』〉

NHK「100分de名著」を見てから、家にあった本を取り出して再読した。命がけの戦いを80回近くして一度も負けなかった武蔵の底力はやはり鍛錬の賜物である。ある武道家が言う「天才とは努力の別名である。天才とは99%までが努力である」。

「好きなことに没頭するうちに、そこから努力の仕方や物事の習得のコツを学んでいる」〈瀧靖之著『賢い子を育てる究極のコツ』〉

親馬鹿ではなく爺アホというのであろうか。私自身の意気地(育児)なしの後ろめたさがあったか、新聞の書籍紹介で見つけすぐに購入した。子どもたちには、何歳になろうか好きなことをやらせる。特にスポーツは頭脳も鍛えると脳科学者は力説している。

2・新聞等のコラムから

◆「小さいことを積み重ねることが、とんでもないところに行くただ一つの道」〈イチロー・4257安打達成の言葉〉

アメリカでは日本の記録が加算されているので評価が低いですが、ピートローズが47歳で作った記録をイチロー選手は41歳にして超えてしまった。破られない記録はないということに改めて私たちに教えてくれた。そういえば高校バスケットボール界の名門能代工業高校が48年ぶりにインターハイ出場を逃したという。小さなことを大切に扱う者に勝利の女神は微笑む。私は小さな体と小さな心を持っているので大事にしていこう。

◆「希望があるから続けるのではない。続けるからこそ希望がわいてくるものもある」〈朝日新聞・天安門事件から27年より〉

中国天安門事件で北京の学生を支援した当時の事務局長が、香港の学生が追悼集会に参加しなかったことを受けて述べた言葉。「中国の民主化が香港につながっているのに」と残念がった。無駄だと思っていたが、運動を続けているうちに血圧、腰痛、体重に希望が。

◆「全ての人が考えるべき抵抗だった・・・自由とは自分の信念を守ることができるということだ」〈モハメド・アリ〉

会津高校時代にアメリカ遠征をした。ケンタッキー州ルイビルからインディアナ州に移動する際に現地の人から「モハメド・アリが金メダルを捨てた川だ」と教えられた記憶がある。当時は何気なく聞いていたが、今になってアリの信念の凄さがわかった。

◆「一寸先はヤミがいい」〈朝日新聞・折々のことば・山本夏彦〉

3人目の孫が誕生した。男か女か楽しみにしていたが、今は事前にエコーで性別は分かってしまう。男なら今度こそ室井家の由緒ある(?)「仁」のついた名前を意気込んでいたが、名前もすでに決まっておられ残念無念。次の孫まで「仁なき戦い」は続く。天気予報も赤ちゃんの性別も一寸先は明らか。バスケットボールの勝敗はまだ闇だろう。